石巻専修大学
●「石巻専修大学」ホームページ● https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

本年4月、創立30年を迎えます

震災の記憶伝えたい

高橋研究室 益満ゼミ

福島県新地町釣師地区 立体模型で再現

住民、ゼミ生が協力して塗装作業に取り組んだ＝1月9日

区画ごとに屋根の色などを細かく再現

理工学部機械工学科・高橋智研究室と経営学部・益満環ゼミが、3Dプリンターを活用し東日本大震災の津波で失われた町並みを立体模型として再現する福島県新地町の事業に協力している。1月9日から14日まで同町で行われた住民参加の制作会に参加した。

新地町は宮城県山元町、丸森町と接する福島県の浜通り地域最北の町。西側は阿武隈山地の北端にあたる山々が連なり、東側は太平洋に面している。同町釣師地区はほとんどの家屋が流失し、多くの犠牲者が出た。町は、心の面での復興と被害の風化防止を図ろうと事業を企画。震災後、石巻市沿岸部の復元立体模型の制作・展示などの取り組みを行った益満教授と高橋准教授に協力を依頼した。

高橋研究室でCAD工学や3Dプリンターの操作を学んだ学生が、震災前の航空測量データをもとに地形や住宅などを再現。制作会では、益満ゼミ生4人が住民と一緒に立体模型の仕上げ作業を行った。

6日間で約100人の住民が参加し、スポンジやプラスチックで樹木を作製したり、昔の写真を見ながら完成したパーツを貼り付けたりと細かい作業に集中した。

新井匠さん（経営2・宮城県仙台城南高）は「地元の方から、航空写真などからは分からない情報や、震災前後の様子を教えてもらい、とても参考になった」と話す。

「高校時代に復興のボランティアをし、もっと関わりたいと石巻専大に入学した。ゼミ活動を通して国内外の多くの方に震災の記憶を伝えていきたい」と決意を新たにした。

完成品は実際の500分の1のサイズで、南北約2㍍、東西約1・2㍍。砂浜には現地で採取した砂を使うなど、細部まで忠実に表現した。今年度内に完成披露会を開催する予定だ。

高大産連携プロジェクト 8チームが成果を発表

こめぼこの商品化について発表するメンバー

石巻専修大学と石巻市内の高校、企業や法人が連携し、地域を支える人材の育成と地域活性化を目指す高大産連携プロジェクトの2017年度報告会が、2月10日に開かれた。計8チームが1年間にわたる活動の様子や実施イベントの成果を発表した。

今年度は「Pepper社会貢献プログラム」（ソフトバンクグループ×石巻商業高校、石巻桜坂高校、石巻工業高校＝5チーム）、「こめぼこ商品化プロジェクト」（楽天野球団、阿部蒲鉾店×石巻北高校、宮城県水産高校＝1チーム）、「復興まちづくり情報交流館プロジェクト」（石巻市復興まちづくり情報館×石巻高校、石巻好文館高校、石巻北高校、石巻桜坂高校＝1チーム）、「ロボットプログラミング体験教室」（富士通コンピュータテクノロジーズ×女川高等学園＝1チーム）が活動した。

ソフトバンクグループの池田昌人氏（人事部CSRグループ・グループマネージャー）による特別講演の後、各チームが報告。「こめぼこ商品化プロジェクト」は発表後、試食品を提供。今野大樹さん（経営3・宮城県石巻商業高）は「地域の新しい味として知ってもらうことを目標に取り組んだ」と話した。

「復興まちづくり情報交流館プロジェクト」の甲州快さん（人間3・山形県酒田南高）は「復興状況をはじめ、石巻市の産業や文化を学ぶことができた。今後は、地域の魅力を伝えるチラシ（2月下旬完成予定）を第一歩に、観光資源をPRしていきたい」と話した。

若者の投票率向上へ
有志6人が啓発活動

菊田さん（右）を中心にアイデアを話し合う＝2月5日

2、3年次生の有志6人が、石巻選挙管理委員会が企画した「若者の投票率向上に向けた座談会」に参加し、当事者の立場から、選挙や投票に関する意見を交わした。

座談会は昨年7月から4回開催。10月の衆議院選挙・宮城県知事選挙では意見を踏まえ、キャンパス内に期日前投票所が設置された。6人はSNSを使った啓発活動など改善案をまとめた中間報告書を作成。1月30日、石巻市役所で開かれた中間報告会で同委員会に提案した。

メンバーは活動継続に意欲をみせ、2月5日には石巻市議会議員選挙（5月20日投開票）に向けた取り組みを話し合った。座長の菊田美桜さん（人間3・宮城県仙台育英学園高）は「座談会で自分自身の意識や考え方が変わった。後輩にも加わってもらい、継続した活動ができるようにしたい」と話している。

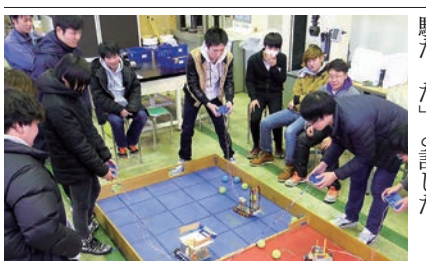
【参加メンバー、敬称略】▽岡崎臣希（経営3・北マリアナ諸島グレイス・クリスチャン・アカデミー）＝副座長▽関佑弥（同・宮城県東北学院高）▽高橋利貴（理工2・宮城県松島高）▽佐々木祐輔（同・岩手県釜石高）▽佐藤香伽（人間2年・岩手県一関第一高）

機械工学科でロボコン開催

1月26日、理工学部機械工学科の1年次生が履修する専門科目「工作実習Ⅱ」（水野純教授）で、恒例のロボットコンテストが開かれた＝写真。

学生はチームを組み、自作のロボットが時間内にどれだけ多くテニスボールを相手コートに入れられるか競った。優勝チームの伊藤諒介さん（山形県山形工業高）は「アームの動きを工夫した。製作してみないと分からない部分があり、試行錯誤を繰り返して改良を重ねた成果」と満足の笑顔。

ベトナムからの留学生のグエン・ミン・ホンさんは「みんなで協力し、ロボットが完成した時はうれしかった。ベトナムの学校ではこのような授業がないので、貴重な経験だった」と話した。



夢かなえ水族館飼育員に
オリックス不動産内定　吉岡映美さん（理工4）

吉岡さん（左）と角田教授＝研究室の前で

悠々と泳ぐエイやサメ。サンゴの間を行き交うカラフルな熱帯魚――。吉岡映美さん（理工4・新潟県新潟第一高）は中学生の頃から水族館の飼育員を夢見てきた。採用枠が「若干名」の厳しい就職活動を乗り越え、東京と京都で水族館を運営するオリックス不動産（東京都）に内定。「大学で蓄えた知識を役立てていきたい」と話す。

一般企業を受けず、東北や関西など5カ所の水族館に応募。オリックス不動産の最終選考では東京スカイツリー併設のすみだ水族館で、水槽の掃除やエサ作りに挑んだ。作業はインターンシップや博物館実習で経験していたが、「募集人数も倍率も分からないので不安だった」。合格の吉報に家族で喜びを分かち合った。

飼育員への道は大学入学直後から始まった。生物科学科での講義とともに、水族館職員に必要な学芸員資格課程の科目を履修。3年次にはダイビングと潜水士の資格を取得した。資格取得に向けた準備とインターンシップの時期が重なり、「2年次のうちにどれか一つを始めていればよかった」と振り返る。

娘の奮闘を知る両親は「諦めたら終わり。就職浪人する覚悟でとことん頑張って」と応援した。

魚のストレス、免疫、適応反応がテーマの角田出研究室に所属し、卒業研究のテーマはニジマスの「生体防御」。人体に無害なエサで養殖ニジマスの免疫力を上げる方法を考察したもので、角田教授と相談し、水族館で生かせるテーマを選んだ。「海洋生物は地域の資源でもあると大学で学んだ。習得した知識を現場で生かしたい」

体験談を発表
幼児教育実習

人間学部人間教育学科の3年次生による幼児教育実習報告会が1月19日に開かれ、実習を終えた26人が実習内容やエピソード、学んだことなどの体験を発表した。

石巻カトリック幼稚園（石巻市）で1カ月間にわたって実習した木村桂さん（宮城県石巻工業高）は「園児の個性に合わせた対応が重要だと感じた。現場の先生方からは『子どもの本音を引き出すには自分が全力で遊ぶことが大切だ』と教えていただいた。先生方の姿を見て、園児との関わり方を学ぶことができた」と話した。

最終講義ご案内

【理工学部】
土屋剛教授＝2月23日（金）13時30分～、5301教室

【人間学部】
大谷尚文教授▽大津幸一教授▽木村民男教授＝2月26日（月）13時30分～、4201教室

2017年度学位記授与式（卒業式）のご案内

日時：3月20日（火）10時30分開式
会場：本学体育館

※式終了後、「卒業を祝う会」（同窓会・育友会共催、14時～、石巻グランドホテル）を開催。